

「図解骨折治療の進め方」第2版がこの度医学書院から出版された。本書は翻訳で原著は Glasgow の整形外科医 Donald McRae による「Practical Fracture Treatment」の第2版 (1989 年) である。それを初版と同様、大阪大学小野啓郎教授と大阪厚生年金病院部長山本利美雄先生が翻訳されている。

もともと本書の初版は 1981 年に出版され、医学生を対象としながらも、直接患者に接する臨床医にとっても実用的な骨折治療の手段を簡潔かつ要領よく集積したものとして好評であった。

第2版では McRae の記述した緒言にもあるとおり、第1部の総論では合成樹脂ギプス材料について新知見を収録したほかに、骨折治療中に遭遇する合併症を特に取り上げ、これに対する理解を深めるためにかなりの X 線像を追加している。第2部の各論は上肢、脊柱、骨盤、下肢の順番で 15 項目に分類されているが、上腕骨骨頭部の骨折については新しく Neer の分類を採用している。さらに舟状骨の骨折には Herbert の分類を付け加え、大腿骨頸部骨折の治療についても揺るがざる地位を固めつつある AO 方式を取り入れている。

本来、骨折の大部分は保存的な治療によって良い成績があげられるものの、たとえ簡単な骨折ですらも数多くの治療法があげられる。本書では一般に認められる保存療法については理論から実際に至る手技が説明文と図によって手際よく順序立てて記載されている。一方で観血的療法は新しい金属固定材料の変遷とともに日新月异の現今である。しかし、本書は著者が意図しているごとく、保存的療法と手術的療法の両極の中庸的方法を採用した点が特徴というべきである。したがって、特殊な材料による特技は別として、誰もが知っているべき現今の治療方法についての知識をまとめたものとして必読の書とい

えよう。

とはいえ、この第2版では新しいものを極力沢山収録し、ほとんどの機種に及ぶ創外固定法や、大腿骨頸部骨折における人工骨頭置換術の方法についても新しい Hardinge の手術侵襲路を紹介しており、さらには人工股関節手術を受けた患者が遭遇した大腿骨骨折に対する治療までも説明が加えられている。もちろん、舟状骨骨折に対する Herbert のスクリューなども取り上げられており、整形外科医が専門に取り組む骨折と外傷の治療法を網羅している。

原著は「実践的な治療法」と翻訳すべきタイトルであるが、監訳を行った小野啓郎教授によって「図解骨折治療の進め方」と日本語の標題を掲げた賢明さに敬意を捧げるものである。極めて短い本文と豊富な図の組み合わせの中に順序立てて骨折の分類から骨折の機転、そして整復の手順、外固定や牽引の方法、さらに手術治療について現今行われている原則的知識がしっかり記述されている。

本書を読破すれば、骨折の治療に対する自信にかなうような確実な教育効果を上げ得る。テスト用の例題 X 線写真も追加され、自己研修に活用もできるユニークな企画である。神経組織と関連する脊柱の骨折についても詳述されているし、第2版においては、骨折の全身的な合併症や発育期の骨折の後遺症、血行障害による無腐性骨壊死、化骨性筋炎、急性動脈閉塞、急性および遅発性の神経障害、脂肪塞栓なども十分に網羅されている。整形外科を専門とする若い人にとって必ず目を通すべき教科書の一つといえるばかりでなく、これを手助けするパラメディカルの人達も、その図を見ながら治療体系の知識を身につけることのできる有用な参考書といえる。

(B5判 338頁 6,592円(税込) 1992年 医学書院刊)